

じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺



沿革

- ◇浄慶寺の歴史は、天正19年(西暦1591年)に豊後国大友家家臣、大塚右京により志摩郡今津村(現在の福岡市西区今津)に右京の長男宗教を開基として建立された事に始まる。
- ◇元和7年(西暦1621年)二代宗興が荒戸(福岡市中央区荒戸)に坊舎を移転、寛永12年(西暦1635年)浄慶寺の寺号が許されました。
- ◇慶安2年(西暦1649年)荒戸より現在の唐人町の地に移転、寛文12年(西暦1672年)故有て西本願寺より、東本願寺へ転派し、貞享2年(西暦1685年)本堂および境内が落慶となりました。
- ◇平成20年(西暦2008年)ご門徒の皆様の多大なご協力の下、ほぼ150年ぶりに本堂および庫裏など境内地を大改修し、現在に至っています。

寺報の発刊にあたり

浄慶寺住職 大塚 展彦

このたび、浄慶寺の寺報が門徒会の編集により発刊される事となりました。北は北海道から南は沖縄まで、全国に京都東本願寺を本山とする真宗大谷派寺院は、7,000か寺ほどあります。それらの多くでは、年間行事などのお知らせをはじめ、よりご門徒に寺への親しみを持っていただくよう寺報が編集発行されています。

浄慶寺では、2017年5月12日～14日に開催された、東本願寺での筑前西組真宗入門教室に参加していただいた中村皓二さん・塩川大一さんが中心となり、同じ西組の寺院の門徒会の方々との語り合いの中で、発刊に向けて準備を進めて下さいました。

各国の保護主義的な政策のもと世界中で多くの人々が困難な生活を強いられています。また、経済格差が進む我が国においては、人生の幸福の基準を考える要素としての宗教的ライフスタイルが見失われて久しく、寺院の多くが廃寺となっています。

このような時代社会の状況であるからこそ、寺報は寺とご門徒の架け橋として大切なものとなると思います。

このたびの門徒会の皆様の発願を機縁として、寺とご門徒の関係性がより親しくなることを願いとして浄慶寺寺報発刊のご挨拶とさせていただきます。



帰敬式に参加して

総代 中村 皓二

五月十二日から十四日まで筑前西組の皆さんと京都の本山研修(真宗入門教室・上山研修)に参加致しました。当寺の大塚住職に教導として皆さんの面倒を見て頂きました。

私の実家は浄慶寺に近い伊崎です。

お寺にお世話になった記録が『文化三年』となって居ますので、今から二百十年以上前からの御付き合いになると思います。

研修初日 午前十一時より同朋会館にて結成式を行い、その後両堂(阿弥陀堂・御影堂)参拝し、同朋会館講堂にて他方から研修に来られた方々と夕事勤行をして最後に感話をとの事で一番に指名を受けて、つたない話をさせて頂きました。二日目・三日目と壮大な建物の中で朝早く聞く阿弥陀経や正信偈の読経の速さに驚き、日頃の生活との違和感が強く感じられました。

最後に仏弟子となる為に御影堂にて帰敬式を受けました。

その時、法名を頂きます。法名は住職と相談をして自分の名前の一文字を取り、

釋 照 皓(しゃくしょうこう)と決まりました。

仏弟子と成りましたと大声で言うほどの決意は御座いませんが、これからは法名の

照の字に習い、皆様の足元を照らす懐中電灯の役目になれば良いなと思って居ます。

皆様の心の拠り所となる浄慶寺になるように、今後も務めて参りたいと思います。

皆様のご協力を、お願い申し上げます。



真宗（大谷派・東本願寺）への導き

《第一回》

親鸞聖人のご生涯（その一）



安城御影

親鸞聖人83歳の姿を描いたとされる

誕生(たんじょう)・得度(とくど)

親鸞聖人は、今から約850年前(1173年・承安3年)、京都の日野の里に生まれました。

平安貴族の政治が終わりを迎えようとする時代でした。

9歳のとき、青蓮院で出家得度して仏門に入られ、その後、比叡山に登り、勉強に励まれます。

しかし、そこでは苦しみ悩みをのり越えるみちを見つけることができず、出家修行に終止符を打ち、法然上人の門をたたかれます。

29歳の時のことでした。

回心(えしん)

法然上人は、どんな命も尊いことを教えてくださるのが阿弥陀仏であり、阿弥陀如来に帰命して南無阿弥陀仏と称えるならば、だれも平等に救われると説かれました。

上人によってわかりやすく、善人も悪人も、老いも若きも、男も女も、生まれや才能も問わず、南無阿弥陀仏を称えることによって成り立つ救いが明らかにされました。

煩惱を超えるために修行を重ねてきた親鸞聖人にはたいへんな驚きでした。

これ以降、念仏をよりどころとして生きていかれます。

法難(ほうなん)

念仏による平等の救いを説く教えは、さまざまな価値観や束縛から多くの人々を解放しました。しかし同時に、古くからあった仏教や権力者らとの間に摩擦を生ずることになりました。

そして親鸞聖人35歳(1207年・承元元年)の時、朝廷から念仏を止めるようにとの命令があり、法然上人のお弟子4人が、死罪となり、法然上人をふくめて8人が流罪となります。

親鸞聖人も罪人として越後(現在の新潟県上越市)に流されます。

これが法然上人との最後の別れとなり、ふたたびお会いすることはできませんでした。

次号につづく



行事予定

- 盂蘭盆法会 8月13日～15日 毎日10時から
- お盆本堂開放 8月11日～15日
- 秋彼岸法要・門徒会総会 9月23日 13時30分から
- 秋彼岸本堂開放 9月20日～9月23日
- おみがき 11月13日
- 報恩講 11月18日～19日
両日とも13時30分から
- 年末本堂開放 12月27日～30日

文芸欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

もやもやの先をひもとく歎異抄
川底の石それぞれにある丸味
仏説に天女が撫でる岩がある
根を下しこが私の萌える場所

川柳

山口由利子

お寺の本堂で葬儀を、行いませんか。(通夜は、ご自宅か、下記の葬儀社となります)

◎お寺での葬儀の連絡窓口として、下記のいずれかの葬儀社へご連絡をお願いします。
いずれの葬儀社の場合も連絡の際は、必ず『浄慶寺の門徒です。葬儀を依頼します。』と伝えて下さい。また、お寺にもご一報をお願いします (住職携帯電話：090-2318-3268)

◇みんせい葬祭

福岡市博多区大博町 (担当者：竹内)

※お寺での葬儀を希望され、みんせい葬祭に通夜葬儀を依頼される方のみ
以下の連絡先にご連絡をお願いします。

092-271-7422 (24時間受付)

又は、090-1342-0006 (24時間受付)

◇お葬式のおおやぎ

福岡市早良区飯倉

(担当者：龍相<りゅうそう>)

※お寺での葬儀を希望され、おおやぎに通夜葬儀を依頼される方のみ以下の
連絡先にご連絡をお願いします。

092-865-4400 (24時間受付)

◎お寺での、お通夜については、現段階では不可能ですが、
今後、出来るような方策を検討していきます。



編集後記

ようやく浄慶寺第一号として、
寺報の発行の運びとなりました。
これからも、定期的に続けて発行
できる様にしたいと思います。
記事の収集も大変な事です。
皆様からの投稿もおおいに歓迎
しますので、よろしくお願ひします。

じゅんげい 第1号

《発行》

真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
浄慶寺門徒会 川嶋正實
〒810-0063
福岡市中央区唐人町3-10-49
電話092-751-0517

《編集》 浄慶寺寺報担当 塩川大一

◇ご命日の集い

毎月28日13時30分から本堂にて開催しております。
親鸞聖人のご命日が28日であります処から、この日に
門徒が集い正信偈をあげております。
また、お経の練習なども行っております。
その後にお茶とお菓子を嗜みながら楽しいおしゃべりを
やっていますので気軽にご参加下さい。

◇清掃活動

毎月28日のご命日の集いの午前10時より、
有志が集い、墓地及び本堂などの清掃活動を行っていますので、
宜しければ、ご参加下さい。